作成者　北山秋雄 2007/03/07

遠隔看護開発基盤研究プロジェクト

【あゆみ】

遠隔看護開発基盤研究プロジェクトは、2002 年 3 月 27 日、県民の健康づくりの支援を目的とした「健康づくり支援部門」設立時、Project A「在宅療養者と家族のための移行期看護プロジェクト」とともに、Project B として計画されました。

2002 年 10 月 30 日、地元のＩＴ企業、近隣自治体等と本学で本プロジェクトに関する初会合を開催し、プロジェクトの意義、市場性、社会貢献等について話し合いがもたれました。海外では、1990 年代からイギリス、デンマーク、スウェーデン等で電話によるテレナーシングが行われ、クライアントやその家族の不安の軽減や医療機関への受診件数･入院日数の減少等に寄与したという報告があります。わが国では、日本看護協会が「地域における看護提供システムモデル事業」として、平成 13～14 年度愛媛県看護協会による「テレビ電話活用による 24 時間在宅ケア支援体制づくり」を支援しています。テレナーシングはテレヘルス(遠隔医療)とは異なり、在宅療養者とその家族介護者に 24 時間の看護･介護支援を行います。それゆえ、利用者の満足度を高めることを最も重要視しています。いつでもどこでも利用者が安心して容易に使え、看護職者も容易に看護ニーズを把握し対処できる機器システムの開発と使用のガイドラインづくり、看護ニーズのアセスメント法の開発等が求められます。

このような背景のもとで、本プロジェクトは最新の情報通信インフラを活用した遠隔看護機器及びシステムの開発を通じて、訪問看護ステーションの機能の充実を図り、在宅療養者と家族への質の高いサービスの提供と医療費の効率化・低減化に貢献することを目指しています。プロジェクトには本学の教員や大学院生だけでなく、地元のＩＴ企業、近隣自治体、伊那テクノバレー地域センター、長野県情報技術試験場等も参加し、最先端の次世代携帯電話システムを用いた世界最高水準の遠隔看護機器及びシステムの開発(システムの名称：遠隔ケアシステムサラス里山)が文字通り産学官の連携のもとで進行しています。2005 年 12 月から本学と駒ヶ根市内の 1 組の高齢者夫妻宅をフレッツ ADSL 回線で接続して試験運用を開始して、ユーザーの満足度や機器の安定性等の情報収集と改善･改良を加えてきましたが、2007 年 4 月から長野県阿南町社会福祉協議会の協力を得てより大規模な臨床試験を実施する予定です。この分野では本学が世界をリードする位置にあり、既に特許（出願番号特願 2003-302676）を出願するとともに、カナダのブリティッシュ･コロンビア大学及びヴィクトリア大学と遠隔看護システムに関する共同研究を進めています。「遠隔看護学(telenursing)」または「遠隔ケア学(telecare)」という学問の創生も視野に入れた「夢」のあるプロジェクトです。

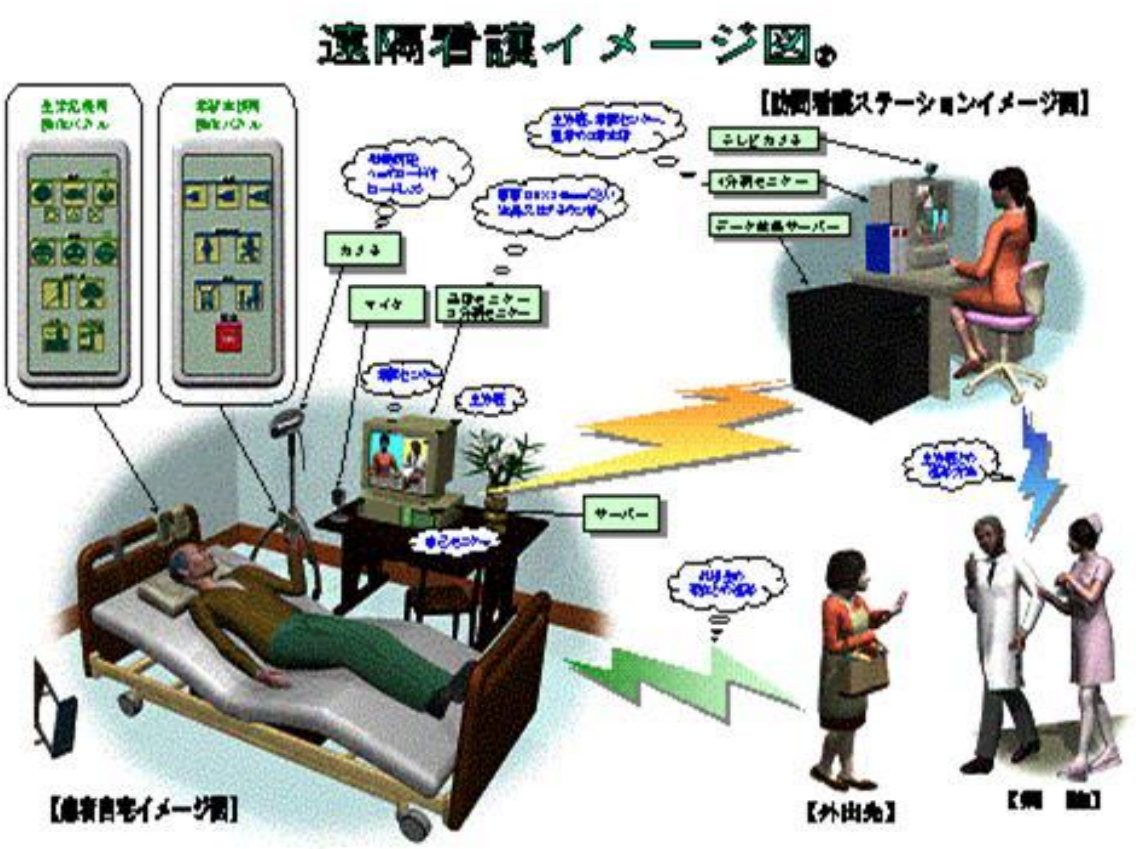
(2007 年 3 月 31 日現在の組織構成員；敬称略)

リーダー：北山秋雄

メンバー：安田貴恵子､那須　裕、岩月和彦、野坂俊弥、千葉真弓、藤垣静枝、清水嘉子、戸田由美子、難波貴代(大学院生)、浅野和彦(大学院生)、

作成者　北山秋雄　　2007/03/07

黒崎真理子(大学院生)
学外研究協力者：縄　秀志、北山三津子

過去のメンバー：見藤隆子元学長、佐伯由香、太田勝正、永井伸夫、嶋澤順子、志村ゆず、和光由紀、平出礼子、楊箸隆哉

本プロジェクトは、平成 17 年度～平成 19 年度日本学術振興会の科学研究補助金（基盤研究 B 約 1,300 万円）を受けています。